



ハイウェイ九条を考える会



№3 2007・9・30
連絡先 〒334-0001
鳩ヶ谷市桜町 6-13-16
森 克彦 048-283-3183
清水 昇 043-291-7293

憲法との関わり

橋本 弘之 (呼びかけ人)

憲法との関わりは2回しかありませんが、まず若い頃の憲法との関わりから筆をすすめたいと思います。

私が小学校4年生の時に新憲法発布を記念して、文部省主催の全国児童書道展が開催され「民衆の新憲法」と書いて金賞を貰うことができました。悪筆の私が、この賞を貰えたのは父の強力な特訓のお陰でした。しかし、小学生ですから憲法の内容は全く知らず憲法の表面に触った位でしょうか。

その頃は第一次吉田内閣で、国会質疑では、共産党の野坂参三が「侵略戦争は正しくないが、侵略された国が、自国を守るための戦争は正しいと思う」と質問し、これに対して、吉田首相は「近年の戦争の多くが、国家防衛権の名に於いて行われたことは顕著なる事実であり、正当防衛や国家の防衛権に依る戦争を認めることは戦争を誘発する有害な考えである」と答弁している。ということが最近になって分かりました。

共産党が九条に疑義を示し、政権与党が九条を護持する。今では考えられないことです。この4年後に朝鮮戦争が勃発し、マッカーサーの指示のもと、警察予備隊が創設されることになりました。現行憲法もアメリカから押しつけられたものだと言われていたが、朝鮮戦争後にアメリカから押しつけられ続けたのは、九条を形骸化することだったので。

次の憲法との間接的関わりは、私が大学1年生の時の安保条約改定の反対運動に関わったときです。当時は岸内閣で国会周辺に反対デモで時々行きました。私は稀々「いろは」順でクラスの委員長に選ばれてしまい、全学自治会の決定により、授業放棄をして国会にデモに行ったのですが、大学当局の姿勢は厳しく、自治会長は未だ1年生でしたが、退学になってしまいました。これも後で知ったことですが、岸首相は最初は改憲しようとしたが、選挙の結果が思わしくなかったため、日米軍事同盟の強化に方針を変えたとのこと。

私の憲法との関わりと云えば、この二つだけですが、最近気になることは「資本論」すら一度も読んでいない自分が、何となく左翼に思えるようになったことです。いつからか左右の軸がすっかりずれて、時代が右に大き

く傾斜しているようです。だからポジションが変わらない人はどんどん左へ追いやられるのではないのでしょうか。

そして、最も気がかりなのは、安倍内閣になってから政権与党は急激に憲法を変える動きに出ていることで、ついに国民投票法も成立してしまいました。又、集団自衛権の範囲を更に拡大解釈しようと首相の私的諮問機関を設けました。

ただし、朝日新聞の世論調査によると改憲必要と思う人が58%にのぼるが、憲法第九条が日本の平和に「役立つてきた」と評価する人が78%を占めるとのことでした。今後の努力次第で9条は守れる可能性があるということです。志を共にする皆さん、智恵を絞って頑張りましょう。

一枚の写真

野中英智 (呼びかけ人)

「呼びかけ人」の一人、野中英智さんより写真の紹介がありました。野中さんのコメントを含め紹介します。



米国のカメラマン・ジョー・オダネル氏が、1945年秋に長崎で撮影したもの。幼い子をおんぶした少年は裸足で、直立不動の姿勢でいる。原爆による死者が連日絶えない長崎では火葬場に列が出来

て、少年は弟を焼く順番を待っている。(毎日新聞 2004年7月31日より)

1945年の秋に長崎でアメリカ人のカメラマンが撮影した写真を同封します。私は1935年生まれで敗戦が国民学校4年でしたから、写真の少年と多分同じ年齢だと思います。当時の自分の写真を見るようで何とも哀しい思いです。私なら泣いていたでしょうし、母親に頼まれ、行かなければならないと分かっているながら、嫌だと言ったに違いないでしょう。食べ物や負んぶ紐に至るまで当時の状況を肌で感じる者です。原爆の赤いめらめらとした閃光を覚えているのです。

帰りには軽くなった背中を名前を呼びながら、母親のもとに裸足で走って帰ったに違いない。



戦後体験記「いやだ」

島博保 (呼びかけ人)

・・・ ホームページ 掲載案内 ・・・

戦後体験記「いやだ」の本文は、会のホームページにあります。アドレスは<http://hw9jo.sakura.ne.jp>です。

本掲載文は、本人による要約版です。

「……太平洋戦争の敗戦を受け入れる日まで、この昭和前期という時代に……。戦争・勝利(部分的とはいえ)・敗戦・占領・被占領・テロ・クーデター・革命騒動から飢餓や言論弾圧まで、人類が体験したであろうすべての出来事がこの時間帯には詰まっている……」(阪正康昭和史の七つの謎 講談社文庫 頁167より)。我々の血も、彼らと同じだ。

ビジネスの前線から退き、古稀を目前にして昭和史に学び、「子らに残す国の実像は？」などと考えていた。その矢先、JHの大先輩(御歳80才)から「島さん、土木技術の伝承も大切だが、人間の伝承をしますか?」「……?」「敗戦の時、何歳?」「小一です」「じゃー、戦後体験 ありますね」「はい」「21世紀を担う後輩や若人に、戦後体験を語ってますか」「いやー 話題にしたことすら、ありません」……、この示唆は骨身に伝えた(2006/7/8)。

奮起し、「戦争について盛り上がる8月」(2006/8/13)までに、戦後体験記「いやだ」A4 15頁を書く。この内容は、敗戦の昭和20年とその翌年、小1~2の体験が大半です。

今も尊敬している懐かしき中学同期の女性らから、「戦

後の辛い体験が血となり肉となり、育んでくれた宝物です。深く心に響き、……」「私も黄燐焼夷弾の降る中を逃げ回り、臥せた1m先に機銃掃射を受け、6歳の目に焼きついています。命があったのが不思議なくらい。未だに、飛行機の爆音に敏感です。なんとか、飛行機には乗っていますが……」「兄や妹、子供らに見せ、その頃の話をもや父から聞き、伝承に努め……、二度と戦争は……」「よく、思いきって書きましたね。それぞれの方が体験を書かなければ、子供達に伝わりません。なかなかできませんが……」などなど、舞い上がりそうな反響を呼ぶ。「原稿書きは、ほめ言葉で生きている」と言われる。なんだか、わかるような気がした。◇

最近の主な出来事

7月29日 改憲を掲げた安倍政権の信任が問われた第21回参院選は29日投票され、自民党は改選の64議席から37議席へと歴史的な大敗北した。参議院において自公を合わせた与党は過半数割れとなった。しかし、自公は安倍続投を確認した。(各紙)

7月30日 「九条の会」の呼びかけ人の一人、小田実(おだ・まこと=作家)が、30日、胃がんのため死去。60年代には「ベトナムに平和を!市民連合」(ベ平連)を結成。「行動する作家」として平和運動に取り組んだ。(共同通信)

7月31日 米下院は30日の本会議で第二次世界大戦中の従軍慰安婦問題に対し日本政府の公式謝罪を求める決議を採択した。決議案の回避を目指してきた安倍政権にとっては大きな打撃となる。(各紙)

9月13日 安倍首相は12日、「テロとの戦いを継続させる上で局面を転換しなければならない」とのべ、辞意を表明した。(各紙)

ホームページ開設のお知らせ

“ハイウェイ九条を考える会”のホームページを開設しました。アドレスは<http://hw9jo.sakura.ne.jp>です。会のお知らせや皆様の交流の場として活用したいと考えています。

憲法に関する様々なご意見、平和やその時々での政治、社会的な出来事などに対するご意見など、どしどしお寄せいただきたいと思います。

この会の活動費の大部分は、「会報」の発行・送料に使われています。金額の大小を問わず協賛金にご協力をお願いします。

協賛金振込口座 ちば興業銀行 佐原(さわら)支店・(店番号820)

口座名義 西岡幸雄(ニシオカユキオ) 口座番号 普通預金 1016510